

医療教育開発センター ニューズレター

徳島大学大学院医歯薬学研究部
医療教育開発センター

1 巻頭言

2 副センター長の紹介

3 取組紹介

蔵本地区1年生合同チーム医療入門は「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」の教育プログラムとなります

- スキルス・ラボ5,6のご案内
- これからの主な取組
- 学会活動
- 用語mini解説

1 巻頭言



医療系学部における 専門職連携教育の定着に向けて

医療教育開発センター長 赤池 雅史

近年、医療の高度化かつ専門化が著しく進歩した一方で、未曾有の超高齢化社会の到来を背景として、患者の持つ心理社会的問題も包括した全人的医療の必要性が高まっています。これらの医療の提供は、一人の医療人、あるいは単一の医療職種だけでは不可能であり、多様な専門性を有する医療人

のコラボレーション、すなわちチーム医療が求められています。チーム医療能力の育成には、“共に学ぶ”、“お互いから学ぶ”専門職連携教育が有効であることには異論はないでしょう。グローバルスタンダードに基づいて行われる医学教育分野別認証評価においても、専門職連携教育は必須項目の一つになっています。

このように専門職連携教育の推進については、総論としてのコンセンサスが得られているものの、現実にはわが国の卒前教育に十分定着しているとはいえません。その原因としては、各学部・学科・専攻のカリキュラムの中で、授業日程を合わせる事が困難であることが挙げられています。しかし、真の阻害因子は、専門職連携教育で修得される能力が、コミュニケーション力、リーダーシップ力、状況判断・決断力、自己管理能力等の汎用的能力あるいはノンテクニカルスキルに該当していることから、学修者や教員にとって暗黙知として目に見えにくい、評価しにくいという点にあるのではないのでしょうか。一方、専門的能力は、形式知やテクニカルスキルとして誰が見てもわかりやすく、学修に取り組みやすいといえます。汎用的能力やノンテクニカルスキルは、Narrative based medicine ならびに患者中心医療の実践や医療安全の実現に不可欠なものですので、専門職連携教育が自然発生的に定着することを待つのではなく、戦略的にカリキュラムに組み込んでいく姿勢が求められていると思います。

徳島大学では、初年次のチーム医療入門が定着し、今年度からはアクティブ・ラーニングの要素も取り入れ、さらに発展が期待されています。これを“ホップ”として、次の“ステップ”では、プロブレムマップ作成による学部横断 PBL チュートリアル教育の準備を学長裁量経費のご支援で進めています。そして“ジャンプ”は、チーム医療カンファレンス等の職種連携臨床実習の実現であると思います。徳島大学病院では非常に多くの職種連携カンファレンスが行われているものの、医学科6年次を対象とした調査では、臨床実習において他職種あるいは他学科学生とコミュニケーションを取る機会があると回答した学生は約 30% に留まっています。これら3つのステップが各学部の正課として実施され、医療教育開発センターのミッションのひとつである専門職連携教育が定着することを目指して、引き続きご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

2 副センター長の紹介 ●●●

岩田 貴(教養教育院(仮称)設置準備室 医療系基盤教育分野教授)

平成27年2月1日付で教養教育院(仮称)設置準備室医療系基盤教育分野教授を拝命いたしました。これまで医療教育開発センター副センター長として、各医療系学部、卒後臨床研修センター、キャリア形成支援センターや地域医療支援センターと協力しながら、質が高く安全な医療を提供できる人材の育成を目指して、スキルスラボを活用した基本的技能から高度技術にわたるシミュレーション教育やon-the-job training、off-the-job trainingを卒前・卒後を通して実践してまいりました。今後は、継続性を持たせて診療・研究のニーズと教育のアウトカムの一致を常に検証しながら進め、臨床現場の全ての医療職にとって必要な基礎的・汎用性能力の教育を発展させ、優れた医療人の育成に貢献したいと思います。



野間隆文(口腔科学教育部 教授)

平成27年度も引き続き、歯学部および口腔科学教育部の代表として副センター長を務めることになりました。現在、国立大学は、政府の「日本再興戦略」、「教育振興基本計画」、「これからの大学教育等の在り方について(第三次提言)」等を踏まえて、自主的な改善や発展をする改革が求められています。また、国立大学は、機能的に3分類され、運営費交付金の配分方法を見直すことが検討されております。医療教育開発センターではその社会的ニーズをしっかりと受け止め、教育プログラムの中に取り込んでいくことが重要であると思います。徳島大学の教育・研究活動では、グローバル化時代の国民的ニーズに応えていくための先進的な課題への挑戦にも取り組んでいけるものと思います。そのためにも進取の気風を育む教育体制の構築・運営に尽力したいと思います。



土屋 浩一郎(薬科学教育部 教授)

今年度から副センター長として医療教育開発センターの活動に参加することになりました。薬学部では医療教育開発センターを通じ学部1年生への早期体験実習、4年生の実務実習事前学習・OSCEへの参加、5年生の病院実習での専門職連携教育導入等に取り組んでいます。また薬科学教育部では新薬の探索から医療現場での薬の処方に至る広範な分野の専門知識と高い研究能力を有する人材の養成をめざしていることから、医療教育開発センターおよび他の教育部との協力が欠かせません。学部・大学院を通じ多様な分野間で連携・対応しうる能力を身につけ、未踏分野の開拓精神に溢れたYAKUGAKUJIN(薬学人)の育成を目指し、副センター長として微力ながらセンターの発展に取り組んで参ります。



酒井 徹(栄養生命科学教育部 教授)

平成27年度も引き続き栄養生命科学教育部の代表として副センター長を務めることになりました。栄養学科は、医学に立脚した管理栄養士養成を目指すために改組により昨年度から学科の名称が医科栄養学科となりました。しかしながら高度な技能・知識を有する管理栄養士を養成するためには4年間教育では不十分であり大学院教育の充実が必要であることは明かです。3年後には医科栄養学科1期生が大学院に入学してきます。その間に医科栄養学科教育システムと連動した大学院カリキュラムを構築していく準備を計画しております。医歯薬学研究部は、5つの教育部が大学院教育を担っており、縦断的な教育指導体制が可能なることから、広い意味での医療人という観点から他の管理栄養士養成施設と大きく差別化ができることが強みです。今後、医療開発センターおよび各教育部との連携体制を構築し、臨床栄養研究者の育成に携わることにより尽力していきたいと思っております。



谷岡哲也(保健科学教育部 教授)

昨年度に引き続き、副センター長として、医療教育開発センターの活動に参加させていただきます。保健科学教育部においてもグローバル化に取り組んでおり、昨年10月からアメリカ人の常勤教授のRozzano C Locsin先生が看護学専攻に加わり、国際的な教育や研究指導に取り組んでいます。四国で唯一、看護学、放射線科学、検査技術科学の学部から博士課程まで一貫した教育体制や医療系3学部5教育部を有する環境を活かし、倫理観や実践力のあるチーム医療、地域医療、国際医療に貢献する医療人と研究者を育成していきたいと思っております。



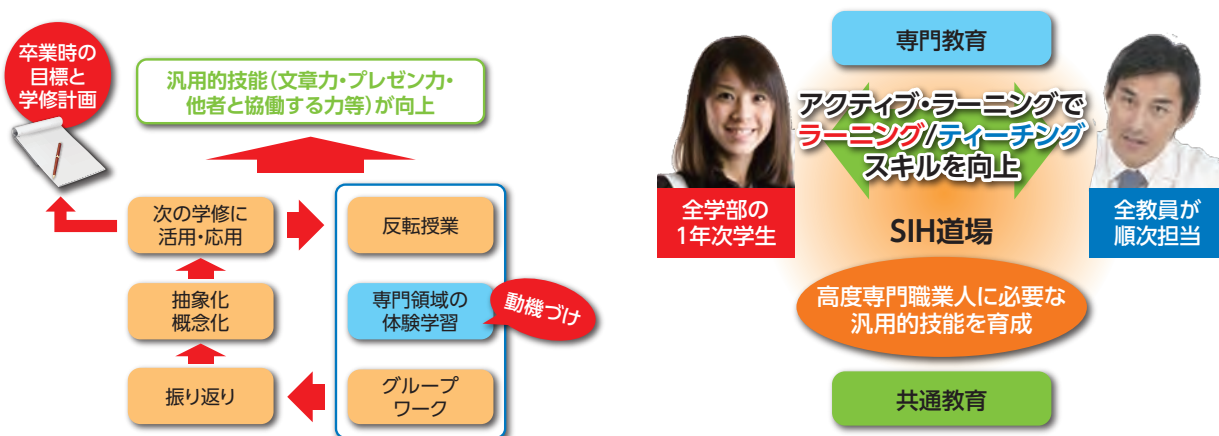
3 取組紹介 ●●●

■蔵本地区1年生合同チーム医療入門は「SIH 道場～アクティブ・ラーニング入門～」の教育プログラムとなります

蔵本地区1年生を対象とした多職種連携を学ぶワークショップである「チーム医療入門」は9回目を迎えます。今回からは平成26年度に文部科学省「大学教育再生加速プログラム」に採択された全学的取組である「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」の教育プログラムのひとつとして、その実施の中核である総合教育センター教育改革推進部門やICT活用教育部門と連携し、支援を受けながら進めます。

【SIH道場とは】

「鉄は熱いうちに打て」(SIH : Strike while the Iron is Hot)の精神に則り、反転授業、グループワーク、学修ポートフォリオ、専門領域早期体験によるリフレクションを基盤としたアクティブ・ラーニングの体験を通して、学生と教員が共に学び合い成長する科目である「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」を、初年次に導入します。本科目では、学生は将来を見据えて学習意欲を向上させながら、リフレクションによる学修の概念化・応用化を図り、能動的学修の実践に必要な「文章力」、「プレゼンテーション力」、「協働力」等のラーニングスキルを体得します。教員は現場実践型職能開発によりティーチングスキルを向上させます。さらに、学年進行に伴い、アクティブ・ラーニングの実質化を学士課程全般に浸透させていきます。これらによって、高度専門職業人として必要な汎用的技能を備え、本学の教育理念である進取の気風を体現できる人材の育成を推進します。



徳島大学ホームページ (<http://www.tokushima-u.ac.jp/campus/education/acceleration.html>) より抜粋

【平成27年度のチーム医療入門はこうなる】

まず、早期体験として医療専門職である特別講師の講演会を聴講し、次にチーム医療をテーマとしたグループワークでプロダクトの作成と発表を行うことで、協働力とプレゼン力を養います。さらに、学生は文章力の学修とリフレクションを兼ねて「振り返りレポート」を作成します。教員は、この過程をファシリテートするとともに、協働力、プレゼン力、文章力のルーブリック評価とそのフィードバックを行い、さらに自らの教育実践の振り返りを行います。

各グループにおける協働力、プレゼン力の評価結果のフィードバックと学生・教員によるプロダクトの共有にはMoodleを活用します。また、文章力の評価結果のフィードバックや学生ならびにチューター教員の振り返りには本事業で導入されたポートフォリオシステム「Mahara(マハラ)」を活用します。

蔵本地区1年生合同チーム医療入門概要

学 生		教員 (チューター、その他)
体験学習 =先輩からのメッセージを聴講する	専門職からの講演会	
・協働力を養う ・プレゼン力を養う ・リフレクション(振り返り)を行う	ワークショップ	グループの協働力・プレゼン力を評価する(ルーブリック評価)
・全体振り返りレポートを作成・提出する	ワークショップ後	全体振り返りレポートを評価する(文章力の評価)

■:新しく追加される作業

■スキルス・ラボ5、6のご案内

医学部第三、四会議室がスキルス・ラボ5、6となりました。ビデオカメラ、映像モニターを用いて、スキルス・ラボ内の他の部屋と結ぶことができます。学習にあわせて様々なスタイルでのグループワーク（議論・討議・まとめ・発表）が可能なアクティブラーニングスペースを確保するため、これまでの長机に代わり曲線を用いたクローバー型の机を配置しています。意見交換しやすい雰囲気での会議、研修を行うことが可能です。皆様の自由な発想でレイアウトし、活用していただきたいと思ひます。



■これからの主な取組

●2015Tokushima Bioscience Retreat

日 時：平成27年9月17日(木)～19日(土)
場 所：香川県 リゾートホテルオリビアン小豆島

●第9回「チーム医療入門」蔵本地区1年生WS

日 時：平成27年9月30日(水)13:00～17:00
場 所：蔵本キャンパス（大塚講堂他）
テーマ：在宅医療の困り事解決
－私たちがどこまで解決できるか－
講 師：市橋 亮一 先生（総合在宅医療クリニック 代表）
演 題：在宅医療入門一家に帰るといふ選択肢

●第3回医療教育開発センター特別講演

日 時：平成27年9月30日(水)19:00～20:30
場 所：徳島大学病院 西病棟11階 日亜メディカルホール
講 師：市橋 亮一 先生（総合在宅医療クリニック 代表）
演 題：多職種のための在宅医療へのアプローチ
－地域づくりを阻む五つの壁を乗り越えよう－

●第7回Simulation医療教育WS

日 時：平成28年1月8日(金)18:00～19:30
場 所：徳島大学スキルス・ラボ
講 師：阿部 幸恵 先生
(東京医科大学病院シミュレーションセンター長・教授)

<企画中>

- 第8回医療教育講演会
- 第5回How to医療コミュニケーション教育
- 第3回学部連携PBLチュートリアルトライアル

●用語mini解説●

プロブレムマップ

多種・多様な問題点の位置づけや関連性をホワイトボードやポストイットを活用して図示化したもの。職種連携教育においては、患者情報あるいはシナリオから抽出した多くの問題点をもとに作成することで、それぞれの職種の視点からみえる問題点が、実は連携し、繋がっていることを学修者が理解できるため、チーム医療能力の育成方法として注目されている。

●学会活動●

●2015 Surgical Education Week(Association for Surgical Education Meeting) 2015年4月23日～25日(米国シアトル)

「Investigation of training for students who is weak in maneuver of laparoscopic surgery - Laborer of the off-the-job training -」

Takashi Iwata^{1, 2)}, Masashi Akaike¹⁾, Kozo Yoshikawa²⁾, Jun Higashijima²⁾, Toshihiro Nakao²⁾, Masaaki Nishi²⁾, Chie Takasu²⁾, Shohei Eto²⁾, Mitsuo Shimada²⁾. Research Center for Education of Health Bioscience¹⁾, Department of Digestive Surgery²⁾, Institute of Health Biosciences, The University of Tokushima Graduate School

●第115回日本外科学会定期学術集会 2015年4月16～18日(名古屋市)

『鏡視下手技が苦手な学生をどうトレーニングするか? off-the-jobとon-the-jobトレーニングの工夫』
岩田 貴^{1, 2)}, 島田光生¹⁾, 赤池雅史²⁾

徳島大学病院消化器・移植外科¹⁾, 徳島大学大学院医歯薬学研究所医療教育開発センター²⁾

●第63回中国・四国地区大学教育研究会 2015年6月13日(徳島市)

シンポジウム『確かな学力による、確かな実力ー能動的学習についてー』
赤池雅史

徳島大学大学院医歯薬学研究所医療教育開発センター

●第70回日本消化器外科学会総会 2015年7月15日～17日(浜松市)

『内視鏡手術時代における卒前教育からのoff-the-jobと反転授業を応用した実習の試み』
岩田 貴^{1, 2)}, 島田光生¹⁾, 吉川幸造¹⁾, 東島 潤¹⁾, 中尾寿宏¹⁾, 西 正暁¹⁾, 徳永拓哉¹⁾, 高須千絵¹⁾, 江藤祥平¹⁾, 赤池雅史²⁾ 徳島大学病院 消化器・移植外科¹⁾, 医歯薬学研究所医療教育開発センター²⁾

徳島大学大学院医歯薬学研究所医療教育開発センター

●第18回日本医学英語教育学会 2015年7月19日(岡山市)

『Improving doctor-patient communication in extracurricular activities』
Yoshiko Yamada¹⁾, Bukasa Kalubi²⁾, Masashi Akaike²⁾, Akiyoshi Nishimura²⁾
Dean's Office, Tokushima University Faculty of Medicine¹⁾, Support Center for Medical Education, Faculty of Medicine, Tokushima University²⁾

●第47回日本医学教育学会大会 2015年7月24～25日(新潟市)

『クリニカルクラークシップ学生対象の反転授業応用総合実習の試み』
岩田 貴¹⁾, 赤池雅史²⁾, 島田光生²⁾,

徳島大学大学院医歯薬学研究所医療教育開発センター¹⁾, 消化器・移植外科²⁾

『ぬいぐるみ病院活動が参加学生に及ぼす教育的効果に関する検討』

西見¹⁾, 村山美咲¹⁾, 赤池雅史²⁾

徳島大学医学部医学科¹⁾, 徳島大学大学院医歯薬学研究所医療教育学²⁾

『講義の反転授業化により学生の自学自習は促進されるか』

三笠洋明¹⁾, 赤池雅史²⁾, 西村明儒³⁾

徳島大学医学部教育支援センター¹⁾, 徳島大学大学院医歯薬学研究所医療教育学²⁾, 法医学³⁾

●第251回徳島医学会学術集会 2015年8月2日(徳島市)

『鏡視下手技が苦手な学生に対するoff-the-jobトレーニングの工夫』

岩田 貴¹⁾, 赤池雅史²⁾, 長宗雅美¹⁾, 島田光生²⁾

徳島大学大学院医歯薬学研究所医療教育開発センター¹⁾, 徳島大学病院消化器・移植外科²⁾

●日本看護学教育学会第25回学術集会 2015年8月19日(徳島市)

教育講演『医療教育の充実と看護教育への期待』

赤池雅史

徳島大学大学院医歯薬学研究所医療教育開発センター

医療教育開発センターニューズレター Vol.16 2015.9.1

編集・発行 徳島大学大学院医歯薬学研究所 医療教育開発センター
〒770-8503 徳島市蔵本町3丁目18番地の15

TEL:088-633-9104/FAX:088-633-9105
http://www.hbs-edu.jp/index.html